介護　みんなで支える介護保険 No 167

問 保健福祉課　介護福祉係
☎476-1111（141）

◆認知症について正しい知識を持ちましょう　part18

今月号は、『認知症介護をしている家族の気持ち』について紹介します。

認知症介護をしている家族などの気持ちを理解し、どんな応援をすればよいのか考えてみることは、認知症の人を地域で支える活動の一環としてとても大切です。

家族の誰かが認知症になったとき、誰しもショックを受け、とまどい、混乱に陥ります。以下に示した『介護者の心理的ステップ』でいえば、まず第１、第２のステップを経験することになります。

その時期をできるだけ早く通り抜け、認知症の人の『あるがまま』を受け入れられるようになるためには、介護者の気持ちの余裕が必要です。

介護者の余裕は、認知症の本人や家族に対する周囲からの理解や介護サービスの適切な利用などによって得られると考えられます。

第１ステップ　とまどい・否定

○異常な言動にとまどい、否定しようとする。

○他の家族にすら打ち明けられずに悩む。

長年一緒に暮らしてきた人を認知症と認めることは、その人の人格を全否定するかのように感じられ、正面から現実を見ることにとまどいを覚えます。

第２ステップ　混乱・怒り・拒絶

○認知症への理解の不十分さから、どう対応してよいかわからず混乱し、些細なことに腹を立てたり叱ったりする。

○精神的・身体的に疲労困憊、拒絶感・絶望感に陥りやすい最も辛い時期。

もう家族だけで問題を抱え込む段階ではありません。医療や福祉の相談窓口を訪ね、診察を受け、適切な介護サービスなどを利用すれば、認知症への理解も進み、対応方法もわかってきます。

第３ステップ　割り切り

○怒ったり、イライラしても何もメリットはないと思いはじめ、割り切れるようになる時期。

○認知症への理解が深まり、症状は同じであっても介護者にとっては『問題』としては軽くなる。

さまざまな情報や経験によって理解が深まり割り切れるようになりますが、認知症がさらに進行して新たな症状が現れることにより再び混乱してしまう恐れがありますので、落ち着いた対応が必要になります。

第４ステップ　受容

○認知症に対する理解が深まって、認知症の人の心理を介護者自身が考えなくてもわかるまでになる。

○認知症である家族のあるがままを受け入れられるようになる時期。

認知症の症状を含め家族の一員としてあるがままを受け入れていく姿は、認知症介護という厳しい経験を通じて介護者自身が人間的に成長した証といえるかもしれません。

◆大崎町の介護保険事業の報告

介護保険事業実績についての報告（利用者の１割または２割負担を除いた大崎町の支払い分）

第1号被保険者（65歳以上の人）		4,964人	平成28年８月末日現在
要介護（支援）認定者		1,012人	
給付実績	在宅介護サービス費	38,669,668円	平成28年７月の給付実績
	施設介護サービス費	59,047,093円	
	その他（介護予防サービス費も含む）	36,180,194円	
	介護サービス費　　合計	133,896,955円	